



- 概要版 -

平泉町観光振興計画

2023-2027



 平泉町
令和5年3月

「持続可能な新たな平泉観光」の構築を目指して

本町では、平成30年に向こう5年間を目標年次とした平泉町観光振興計画を策定し、町民や事業者、町が一体となって観光振興施策を展開してきたところです。

平成23年6月に平泉の文化遺産が世界遺産に登録されて以降、本町には国内外から多くの観光客が訪れておりましたが、令和2年の初めごろから世界的に猛威を奮う新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の移動が制限され、観光客は激減し、今なお地域経済に大きな影響を与えています。

一方、令和3年11月に世界遺産を紹介する新たなガイダンス施設「岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンター」がオープンし、同年12月には、東北自動車道平泉スマートインターチェンジの供用が開始され、周辺地域の開発を含めた新たな平泉観光の拠点づくりを進めるなど、観光客の受入態勢整備を進めています。

更には、令和5年1月に、平泉町長島地区・一関市舞川地区・奥州市生母地区に広がる東稲山麓地域が日本農業遺産に登録され、世界灌漑遺産と併せ、先人たちが築き、受け継いできたこの地域にしかない固有の「宝」をまちづくりに活かしていくとともに、様々な文化が行き交い、多様な人々が学び、交流し合うことができる国際文化交流都市「平泉」を目指します。

そのためにも、本計画がこれからの地域づくりの指針として、町民や事業者、町が互いに協働しながら、観光振興を積極的に進めるとともに、「持続可能な新たな平泉観光」の構築を目指してまいります。

終わりに、本計画の策定にあたり、ご尽力を賜りました町観光振興計画策定委員及び町観光審議会委員の皆様をはじめ、アンケート調査などを通して、貴重なご意見やご提言をお寄せいただきました町民の皆様には心からお礼申し上げます。



平泉町長 青木幸保

目 次

計画の位置付け.....	1
観光振興計画の計画期間.....	1
前計画の進捗.....	1
平泉町の観光動向.....	2
平泉町観光の課題.....	3
観光振興ビジョン.....	4
基本方針.....	4
観光振興プラン.....	5
計画の推進に向けて.....	9

計画の位置付け

「平泉町観光振興計画」は、平泉町政の基本的指針である「第6次平泉町総合計画（計画期間：令和3年度～令和12年度）」を踏まえる観光部門の基本計画であり、「平泉町まち・ひと・しごと創生総合戦略2021（計画期間：令和3年度～令和7年度）」等の関連計画との整合を図りながら観光施策を体系的に示すものです。

観光振興計画の計画期間

計画の期間は、令和5年4月から令和10年3月までとします。

前計画の進捗

平成30年3月に策定した前計画（平泉町観光振興計画）は、3つの基本方針のもと38の具体施策に取り組むこととし、計画期間（平成30年～令和4年）における目標数値を設定するとしていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行が世界的な観光需要の引き下げにつながるなど本町の観光にも大きく影響したことにより、目標数値に対して実績値（令和4年）は大きく下回っています。

「平泉町観光振興計画（平成30年3月）」の施策体系

基本方針1 体験・交流・回遊を目的とした観光資源のネットワーク化

- (1) 体験プログラムの支援・展開
- (2) 町民と観光客との交流促進
- (3) 回遊型街づくりの推進
- (4) 地域資源の魅力・ブランドの創出

基本方針2 住民参加で進める観光客との交流・誘客促進

- (1) 受入環境の整備
- (2) 人材の育成
- (3) 情報発信、誘客プロモーションの強化、適切な情報発信
- (4) 町民の意識醸成・効果測定

基本方針3 広域連携による平泉町の魅力の向上

- (1) 体験プログラムの支援・展開
- (2) 広域観光体制の充実

■目標値と実績値

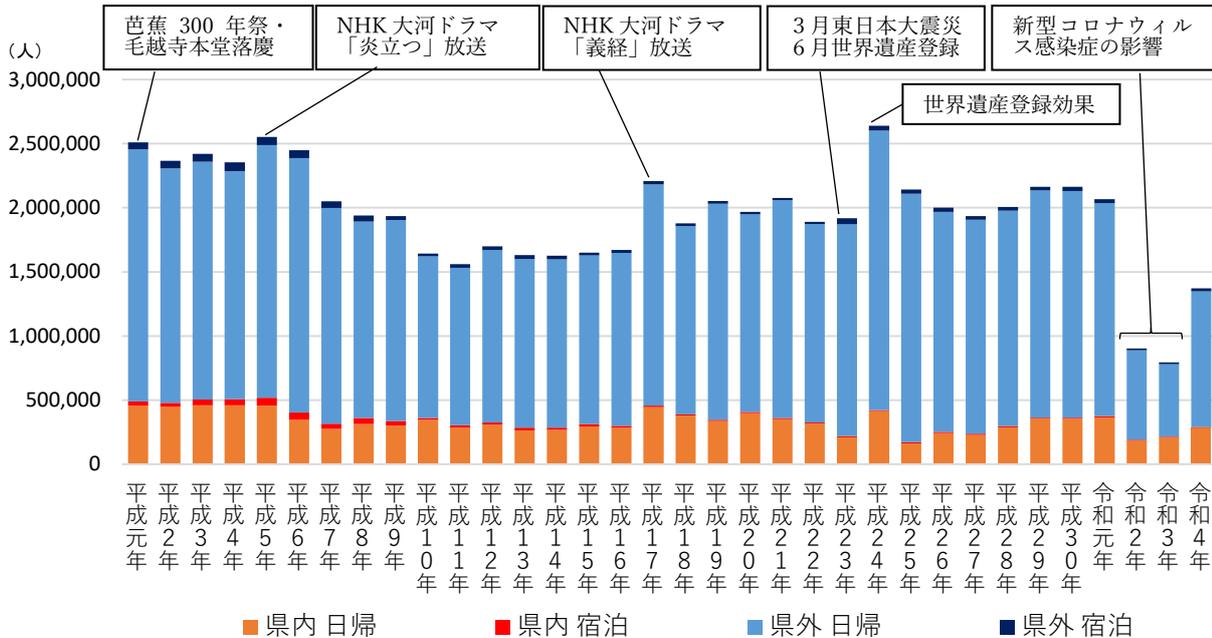
目標指標	基準値 平成28年（暦年）	目標値 令和4年（暦年）	実績値 令和4年（暦年）
観光客入込数	200.6万人回	250.0万人回	137.0万人回
外国人観光客入込数	32.2千人回	100.0千人回	3.5千人回
宿泊客数	38.5千人回	46.2千人回	29.8千人回

平泉町の観光動向

■観光客入込数

観光客入込数の推移をみると、過去 15 年間は、概ね年間 200 万人前後で推移してきました。令和 2 年から令和 3 年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込みましたが、令和 4 年では回復傾向に転じています。

観光客入込数の推移

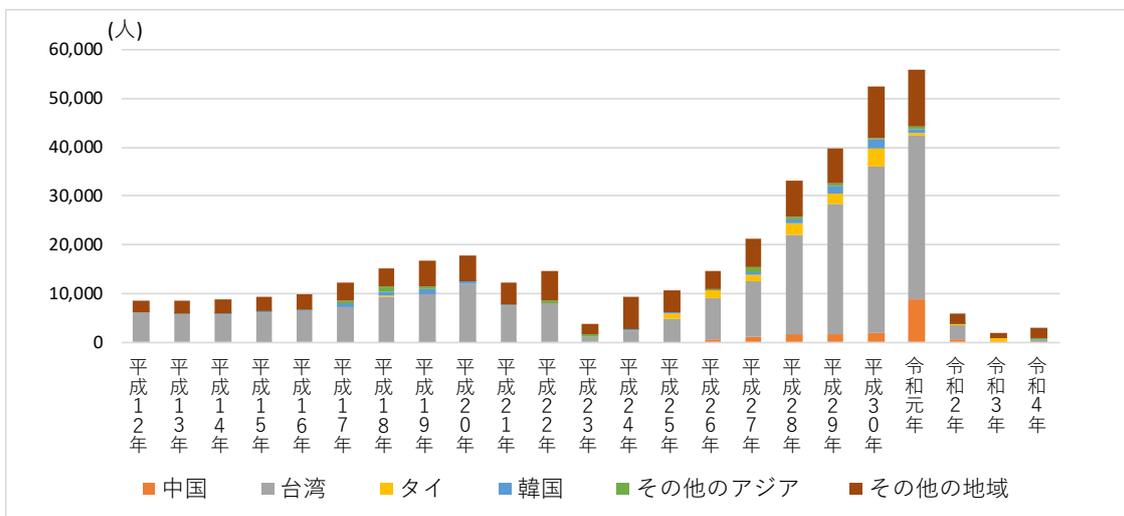


■外国人観光客数

コロナ禍前には、国の「ビジット・ジャパン事業」等のインバウンド対策の効果が顕著に現れて、令和元年にかけて急激な伸びをみせていました。

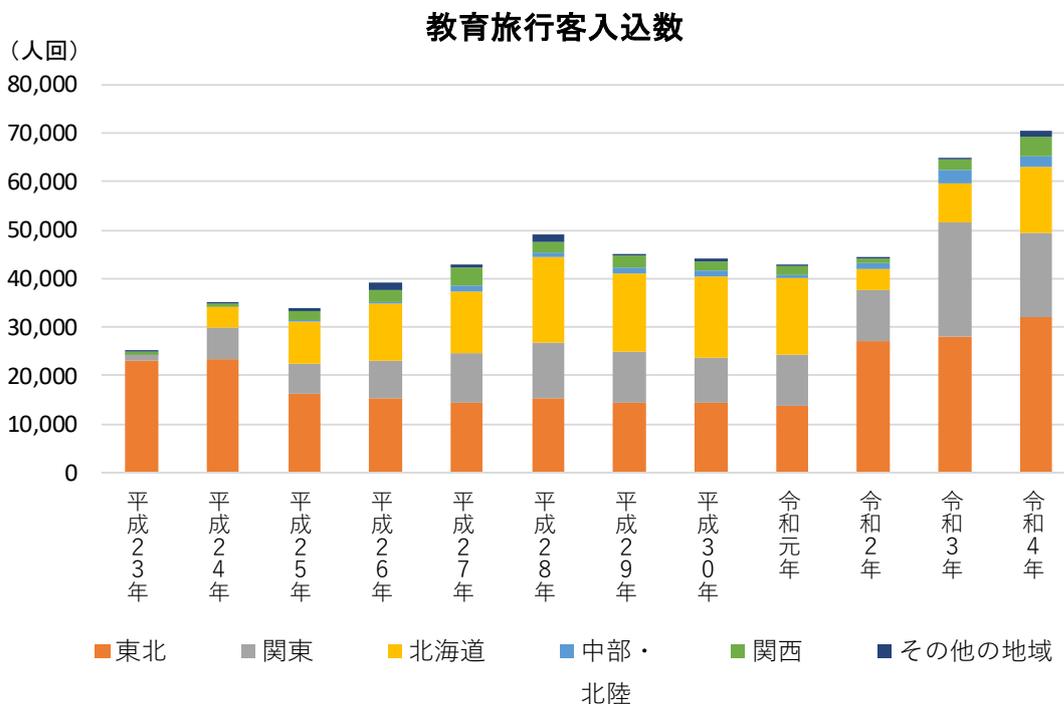
特に、台湾からの訪日客が多く、中国、タイからの観光客も増え始めています。

外国人観光客数



■教育旅行客入込数

新型コロナウイルス感染症による観光客入込数の減少期にあたる令和 3 年においても、教育旅行客の入込数は伸びており、令和 4 年時点では特に東北・北海道エリアの伸びが顕著になっています。



平泉町観光の課題

課題 1	◆平泉の特徴である平安時代からの“物語（浄土の理想郷づくり）”をモチーフとしたテーマ性をより強化し、モノ消費からコト消費へ転換を図りながら、体験需要への訴求力を高めていくことが望まれます。
課題 2	◆観光モニタリング機能の充実により多様な需要を把握しながら、先人が大切に護り伝えてきた文化や歴史、自然等の地域資源を効果的に活用した魅力あるコンテンツの提供による競争力の強化が必要です。
課題 3	◆担い手の育成や起業支援などを通じて、おもてなしの一翼を担う地域商業機能の活性化を図り、経済循環の仕組みづくりにより観光産業の安定化を図ることが求められます。
課題 4	◆持続可能な観光地づくりに向けて、観光協会やDMO、商工会等の観光関連団体のほか、町内外からの多様な人材の参画を得て、観光を総合的にマネジメントしながら、来訪者の満足度を高めるような受入態勢を整えることが望まれます。

観光振興ビジョン

■観光振興の目標

町民が自らの地域の価値を再確認し、その担い手であるという自負の心や郷土への愛着を強めるとともに、町外から観光で訪れる多くの人々が平泉の浄土思想に対する印象をより強く抱き日々の暮らしに活かしていくこと、このことを観光振興の基本的な目標に据えます。

観光客が町民と交流する機会を充実させることで平泉のファンとなり関係人口として何らかのかたちで地域に関与すること、その先には「住んでみたい」という思いから定住へと発展させるなど、まちの持続的発展の力を増幅させていくことを観光振興の究極の目標に据えます。

■将来の姿

- 浄土の精神世界を体感するために世界中から人々が訪れ学ぶまち
- 担い手が育ち来訪者へのサービスが行き届く持続可能なまち
- まちに誇りを持つ住民と来訪者との交流を通じて定住を促進するまち

■基本目標指標

目指すべき「将来の姿」への到達度を検証するための基本的な目標指標と計画最終年の目標値を以下のとおり設定します。

基本目標指標	令和4年 (暦年)	令和9年 (暦年)
観光客入込数(人)	1,370,433	2,200,000
外国人観光客入込客数(人)	3,458	70,000
宿泊客数(人)	29,803	50,000
来訪者満足度(%)	54.4	70.0
平均滞在時間(時間)	3.9	4.5
平均観光消費額(円/人)	18,491	20,000

基本方針

観光振興の目標と将来の姿を実現するために、以下の方針のもと取り組みます。

基本方針1 平泉の本質的価値の発信強化による訴求力の向上

基本方針2 多様な地域資源を活用した魅力あるコンテンツの提供

基本方針3 観光を支える基盤づくり

基本方針4 観光の総合的マネジメントと受入態勢の整備

観光振興プラン

基本方針1 平泉の本質的価値の発信強化による訴求力の向上

(1) 浄土思想に基づく平和・平等精神の発信強化	
①平泉 900 年事業の展開	
新規重点	令和6年(2024年)に中尊寺金色堂建立900年、令和8年(2026年)に中尊寺落慶供養900年等の900年記念事業を軸とした情報発信と観光振興を推進します。
②ガイドンス施設の活用促進	
新規重点	平泉文化遺産センターや平泉世界遺産ガイドンスセンターが平泉観光の出発点になるよう、施設の周知・案内などのあり方を工夫します。
③観光ガイドの維持・育成	
既存	平泉町観光ガイド事務所や古都ひらいずみガイドの会のガイド数を維持するとともに、スキル向上のための人材育成を推進します。また、外国人観光客に対応するため、外国語対応ガイドの増加に向けた基盤強化、通訳案内士の育成を支援します。
④観光プロモーションツールの充実と情報発信	
既存	世界遺産平泉の思想や理念について、“平和”や“平等”などの世界に通じる平泉ならではの普遍的な価値観を的確に伝えられるよう、多様な情報媒体を活用して国内外の観光客に向けたプロモーションツールの充実を図ります。また、イベントや観光情報については、テレビやFMラジオ、新聞などのマスメディアを有効に活用するとともに、町や観光協会などでSNSを活用した情報発信を積極的に行います。
⑤「平泉学」の普及促進	
既存	町内の幼稚園・保育所・小学校・中学校で、平泉文化を系統的に学ぶ「平泉学」への取り組みを行い、首都圏や仙台での学習旅行の際に観光PR活動のほか、町民が進める観光案内などの口コミ情報等を含め、町民が主体となったPR活動を推進します。
(2) 教育旅行の推進	
①教育旅行の誘致・受入	
既存重点	岩手県観光協会が主催する教育旅行誘致説明会への参加や、本町独自の取り組みである北海道や関東・首都圏をターゲットとした教育旅行誘致キャラバン活動など、関係団体と連携しながら教育旅行の継続的な受け入れに向けた誘致活動を推進します。
②教育旅行メニューの充実	
既存重点	中尊寺・毛越寺での坐禅、写経、法話などの体験や、農家民泊や農業体験などのプログラムを継続的に実施するとともに、まちなかに点在する遺跡やガイドンス施設の回遊、伝統工芸品や郷土料理を活用した体験、自然フィールドを活用したアクティブメニューなど、魅力的な教育旅行コンテンツの充実を進めます。また、SDGs ワークブックの活用により、SDGs で学ぶ世界遺産平泉プログラムの普及を図ります。
③社会教育施設の活用	
既存	令和4年7月にオープンした平泉町学習交流施設エピカは、公民館、図書館、子育て支援機能、多目的ホール機能を備えた複合施設であり、この施設を活用したイベントなどを展開することで、町民と観光客の交流を促進します。

<平泉の本質的価値の発信強化による訴求力の向上の成果指標 (KPI) >

成果指標	令和4年 (暦年)	令和9年 (暦年)	概要
観光プロモーション情報発信ツール数	3	5	既存の情報発信媒体に加えデジタルツール等の新たなツールの活用
教育旅行学習プログラム数	9	11	坐禅や写経体験、伝統工芸体験、農村体験のほか、新たな教育旅行体験プログラムの構築

基本方針2 多様な地域資源を活用した魅力あるコンテンツの提供

(1) 体験プログラムの充実	
①世界遺産の社寺・仏閣による新たな体験プログラムの展開	
既存	現在は、社寺の拝観、坐禅・写経・法話などの体験や「四寺廻廊」などの御朱印集めのほか、境内の風景やお堂など写真映えするものを撮影しSNSに投稿するといった多様なニーズが顕在化していることから、早朝坐禅、ライトアップ、講演会、書道展、絵画展など宗教活動以外の新たな体験プログラムの展開やPRを図ります。
②四季を通じた体験プログラムの開発	
既存 重点	四季折々の自然景観スポット、それらを巡るウォーキングコース、大文字展望台からの眺望（夕日や黄金色の田んぼ）のほか、自然景観や農村風景など潜在的観光資源の魅力を掘り起します。また、既存の資源の中で四季を感じられる体験（浴衣のまち歩きなど）プログラムを開発します。
③宿泊交流体験施設の活用	
既存	既存の仏教体験、農業体験、伝統工芸体験の認知拡大に加え、宿泊交流体験施設浄土の館を活用した体験メニューの充実とともに、広域的な情報発信を行います。
④ウォーキングトレイル・ルートを活用した体験プログラムの展開	
既存	平成31年3月に策定した「平泉町ウォーキングトレイル魅力化計画」に沿って、施設整備やガイド人材の養成、情報発信、季節ごとのイベント実施、安全対策等の維持管理を実施します。
⑤グリーン・ツーリズムの推進（農泊・農業体験）	
既存	農家の負担を考慮しながら、持続可能な展開が図れる仕組みの構築や、教育旅行・一般観光客・外国人観光客への受け入れに向け、利用者のニーズと農家の受け入れをマッチングさせる仕組みにより、農業×観光による地域の活性化を図っていきます。
⑥束稲山麓地域の活用	
新規 重点	令和5年1月に日本農業遺産に認定された束稲山麓地域は、自然と共生しながら暮らしを営んできた先人の知恵や努力を背景に、地域の人々の歴史や文化・風土が育まれ、また、国指定名勝のさくら山をはじめ、自然景観にめぐまれた地域でもあることから、こうした資源の活用を進めていくため、桜情景復活事業との連携を図るとともに、西行桜の森での体験メニューの構築を検討します。
⑦生活文化体験の推進	
新規	郷土料理や風習など先人から受け継がれてきた平泉の生活文化を発掘し、これらを活用してSAVOR JAPANの取り組みなどと連携しながら、国内外から訪れる観光客と交流ができる仕組みを検討します。
(2) 観光メニューの充実	
①中尊寺通り・毛越寺通り・平泉駅前の賑わい創出	
既存 重点	中尊寺通りや毛越寺通り、平泉駅前を中心に、町内の観光・商工関係者やまちづくり団体などによる町民と観光客が交流できる賑わい創出事業の充実を図ります。
②観光関連事業者等が一体となったまち歩きの推進	
既存 重点	観光関連事業者と行政が連携しながら、飲食店や土産店、観光施設などの利用促進を図る企画事業を展開するとともに、早朝坐禅、ライトアップと連携した朝食堂・夕食堂の展開など周遊促進と消費拡大を促す仕組みを構築します。
③平泉スマートインターチェンジ周辺の土地活用	
既存 重点	令和3年12月に平泉スマートインターチェンジが供用開始され、隣接して大型駐車場も整備されたことから、観光資源としての活用の方向性について検討を進めます。
④エクスカージョンによる観光客の誘客	
既存	仙台市や盛岡市など周辺都市で開催される国際会議等に訪れた関係者を平泉に招き、自然や歴史、文化など地域の様々なテーマについて理解を深める「体験型見学会」を開催するなど、エクスカージョンによる誘客について検討します。

⑤国際化に対応したまちづくり	
既存	観光パンフレットやホームページ、まちなかの案内板等については多言語化を推進し、観光案内所や役場の窓口、観光関連施設、観光交通等における外国人への対応の充実を図るなど、外国人観光客が訪れやすい環境づくりを目指します。特に、主要なマーケットである「台湾」、「タイ」、「中国」からの観光客に対応し、町内事業者への外国語の支援講座や翻訳支援について推進することに加え、国際交流員による観光客への案内、商店への対応指導などを推進します。また、外国人観光客からのニーズが高いFree Wi-Fi や海外キャッシュカード・クレジットカードの使用について、商工会や民間事業者と連携し、環境整備を検討します。

<多様な地域資源を活用した魅力あるコンテンツの提供の成果指標（KPI）>

成果指標	令和4年 (暦年)	令和9年 (暦年)	概要
地域資源を活用した体験プログラム数	3	5	地域で体験できる魅力ある資源の掘り起こし
事業者主体の賑わい創出事業数	2	3	中心街路の賑わいを創出するイベント等の開催

基本方針3 観光を支える基盤づくり

(1) 観光×商工×農業の取り組み

①中尊寺通り・毛越寺通り・平泉駅前を核とした滞在型観光の推進

既存 重点	中尊寺通り・毛越寺通り・平泉駅周辺において、空き家等の活用による飲食・物販・休憩のための交流施設の立地を促進するとともに、平泉らしいまち並みの形成を図りながら、観光客がゆっくり滞在できるまちづくりを推進します。
----------	---

②ニーズに応じたきめ細かな宿泊サービスの展開

新規	インバウンド観光客に対する外国語対応のほか、個々の利用客への観光情報の案内や各種手配などのサービスを通じて、人と人とのつながりを大切にす地域ぐるみでのおもてなしに取り組み、リピーターの確保を推進します。
----	---

③道の駅の農作物販売・強化

既存	地元農家の野菜生産の促進、ニーズの高い品種の生産などの働きかけを進め、農産物の販売強化と町内農家への経済波及を図ります。また、販売した農作物を活用した料理メニューの開発・提供など、域内で循環する仕組みの構築を図り、農家のみならず周辺住民も含めた参画と交流の機会を促進します。
----	---

④既存特産品のブランド力の強化・新商品開発の促進

既存	「平泉からし肉まん」や「どぶろく一音」、「東稲山麓ワイン」などの特色ある商品の販売が展開されていますが、特産品としての認知度がまだ低いことから、商品のブラッシュアップと販路拡大のためのPRを行うとともに、平泉ならではの新たな商品開発を進め、特産品のブランド力強化と販売の促進を図ります。
----	---

(2) 景観の保全とまち並み形成

①景観形成・土地利用の促進

既存 重点	近年、人口減少や少子高齢化などの影響から、まちなかの空き家や空き地、空き店舗などが増加傾向にあり、地域固有の文化的景観を阻害する要因にもなっていることから、引き続き土地建物所有者の意向を踏まえながら、平泉らしい景観形成や土地利用を促進します。
----------	---

②空き家・空き店舗の活用支援

既存 重点	空き家や空き店舗に対して、「空き店舗対策補助事業」、「店舗リフォーム補助事業」等を活用した起業の支援などにより、店舗等の立地を誘導し、まちの賑わい創出を図ります。
----------	---

(3) 回遊型まちづくりの推進	
①二次交通の充実	
既存	平泉スマートインターチェンジ供用開始に伴う観光客の新たな移動経路を踏まえた、平泉巡回バスるんるんのルートや運行時間、レンタサイクルステーションの設置など、適切な町内観光周遊の二次交通のあり方と、隣接する一関市や奥州市の観光施設への観光客の移動を支える二次交通手段のあり方について検討します。
②まち歩き環境の整備	
新規	観光客が安心して快適にまち歩きができるよう、ルート上の案内看板を充実するとともに、スマートフォンを活用した観光情報の提供のほか、AR、VR等のデジタル技術を用いたエンターテインメント性のある周遊観光コンテンツの作成を推進します。

<観光を支える基盤づくりの成果指標 (KPI) >

成果指標	令和4年 (暦年)	令和9年 (暦年)	概要
「空き店舗対策補助事業」、「店舗リフォーム補助事業」の活用数	3	4	新規開業店舗や観光客の利便性を考慮した店舗リフォームなどへの支援

基本方針4 観光の総合的マネジメントと受け入れ体制の整備

(1) 観光人材の育成	
①1ターン等の受け入れによる人材育成	
既存 重点	町内の空き店舗に出店する事業者を支援する「空き店舗対策補助事業」等により、1ターン等により新規に開業を目指す人材の育成支援を推進します。
②「平泉学」を土台としたおもてなしの心の醸成	
既存 重点	町内の幼稚園・保育所・小学校・中学校では、郷土の歴史や世界遺産を系統立てて学ぶ「平泉学」に取り組み、まちの情報発信の担い手となる人材の育成を図るとともに、一般成人・高齢者には歴史教室などの講座を開設するなど、引き続き“平泉学”を通じて、まちを訪れる観光客へのおもてなしの心を醸成していきます。
③ホスピタリティの向上と多文化共生事業の推進	
既存	観光客に接する機会が多い観光関係者をはじめ、商店や交通関係者に対して研修会等を実施し、ホスピタリティの向上を図ります。また、本町に所属する国際交流員との接点を増やし、町民の外国人文化の理解促進を図りながら、多文化共生事業の推進を図ります。
(2) マネジメント等体制整備・実践	
①観光モニタリングの実施	
既存	駅などの交通結節点や観光施設、宿泊施設等において、観光客向けに平泉観光への評価や新たな観光需要などの把握のためのアンケート調査を定期的の実施し、観光魅力の恒常的な向上に役立てます。また、世界遺産平泉・一関DMOと連携したマーケティング調査、地域住民、地域の観光事業者に対するモニタリング調査を実施し、取り組みの適宜改善を図ります。
②体系的な観光推進のための体制運営	
既存	体系的な観光振興の推進のために、町民、観光協会・商工会、観光関連団体・事業者と町からなる「平泉観光推進実行委員会（幹事会・専門部会）」において、引き続き日常的な課題への対応を検討、実施していきます。また、観光客のニーズに対応する窓口として、平泉観光案内所や平泉駅なか案内所の体制強化を図ります。
③世界遺産平泉・一関DMOと協働した「観光地経営」の推進	
既存	「観光地経営」の視点に立った持続可能な観光地域づくりに向けて、世界遺産平泉・一関DMOと協働しながら「稼ぐ観光地」づくりを推進します。また、地域にある人やもの、情報等のあらゆる資源を活用して、個性と競争力のある観光魅力づくりに取り組みめるよう、必要な支援を行います。

④他産業・他分野との連携強化	
既存	グリーン・ツーリズムや民泊の事業推進、「平泉学」に関する教育コンテンツの活用、緊急時の医療体制づくり、歩車分離やバリアフリーによる安全安心な歩行環境づくりなど、観光産業のみならず、本町の基幹産業である農業資源のほか、教育・文化、医療・福祉、建設など、地域にあるあらゆる資源を活用し、観光地としての魅力強化を図ります。
⑤観光DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進	
新規	観光客の利便性向上に資するアプリの開発・運用や、キャッシュレス決済の導入とそのデータによるマーケティングへの活用、顧客予約管理システム（PMS）の導入による情報管理の合理化など、デジタル技術の活用を推進し、観光客の利便性向上と関連産業の生産性向上、関係者間の連携強化等を通じた地域活性化や持続可能な経済社会の実現を目指します。
(3) 広域観光連携	
①県内自治体との観光連携事業	
既存 重点	平泉の文化遺産に関連する一関市・奥州市の自治体・観光協会・商工会議所・商工会と岩手県県南広域振興局で構成する世界遺産連携推進実行委員会を基軸とした観光誘客や受入態勢整備事業を推進します。また、県内で世界遺産を有する釜石市・一戸町との世界遺産連携事業を検討しながら、岩手県内に波及効果をもたらす広域観光連携事業を検討します。
②広域的観光連携事業の推進・強化	
既存 重点	奥州藤原氏とゆかりの深い東北各地の自治体や観光関係団体との連携を強化しながら、東北管内の広域観光ルートづくりを積極的に進め、国内外からの誘客促進を図ります。また、日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」を構成する関係自治体や、国指定名勝の「金鶏山・高館・さくら山」でつながる「おくのほそ道の風景地」、松尾芭蕉・西行法師に関連する国内の自治体による広域ネットワークをさらに強化しながら、国内外に向けた情報発信事業を展開します。
③町民の地域間交流の促進	
既存	豊かな自然環境や平泉の文化遺産等の本町の特長・資源を活かしながら、姉妹都市の和歌山県田辺市や友好都市の東京都江東区、平泉の世界遺産と同時登録を果たした世界自然遺産を有する東京都小笠原村をはじめ、他自治体との町民主体の交流活動の展開を促進します。

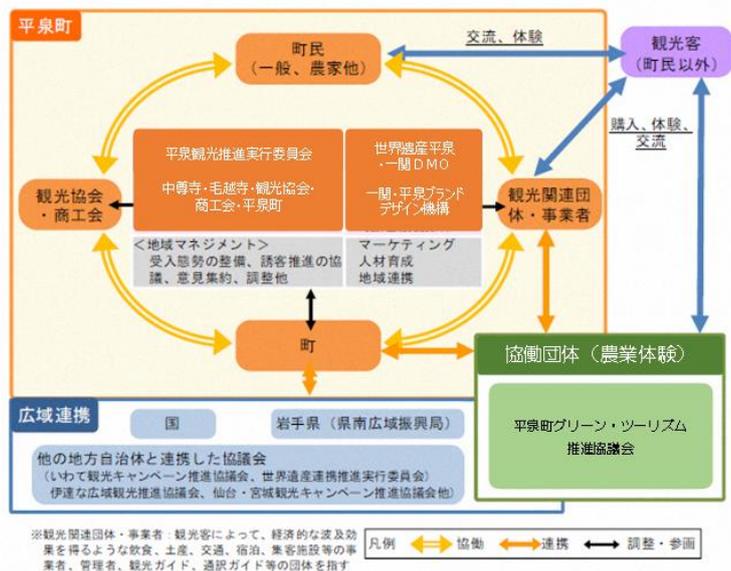
<観光の総合的マネジメントと受け入れ体制の整備の成果指標（KPI）>

成果指標	令和4年 (暦年)	令和9年 (暦年)	概要
多世代に渡る「平泉学」の取り組み数	7	8	世界遺産平泉の理念や価値を発信する人材育成への取り組み
多文化共生事業数	2	3	国際観光都市を目指した地域づくり、人材の育成

計画の推進に向けて

「平泉観光推進実行委員会」を中心に、「世界遺産平泉・一関DMO」や平泉町グリーン・ツーリズム推進協議会の参画を得ながら、町ぐるみで施策の展開を推進していきます。

また、本計画の確実な実行に向けて、達成目標として掲げたKPIについて達成状況を把握するための定期的な調査等を実施し、必要に応じて計画の見直しを柔軟に行っていくこととします。



平泉町観光振興計画 令和5年3月

発行：平泉町 〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉志羅山45番地2 ☎：0191-46-5572（観光商工課 観光係）